

門へ13
3861
5

照天松操月鹿毛

三編上集

嘉永乙卯

新春發兌

柳枝綴

國輝画

泉市板



清少納言が枕の草紙に凄凉敷の老女の化粧と冬の月

譬の只見る所借とわのひえ外面如菩薩内心如夜叉と

佛の説く実ふ然り飽く身を邪ある藤浪が姿の花を誰も

皆愛するものら健男も一度惑いを取らふ至らん嗚呼恐るべし

慎べし仇をのこ思ふあつる心の倭けの二編小序より横山小對より

なりの家業も世話も商人の童子等是を水鏡も清き心を

持よりわが幾千代尽ぬ松が枝も紫の色を増えとまのひみ

嘉永八歳次

乙卯太郎月

春風亭柳枝

雪扇

名入

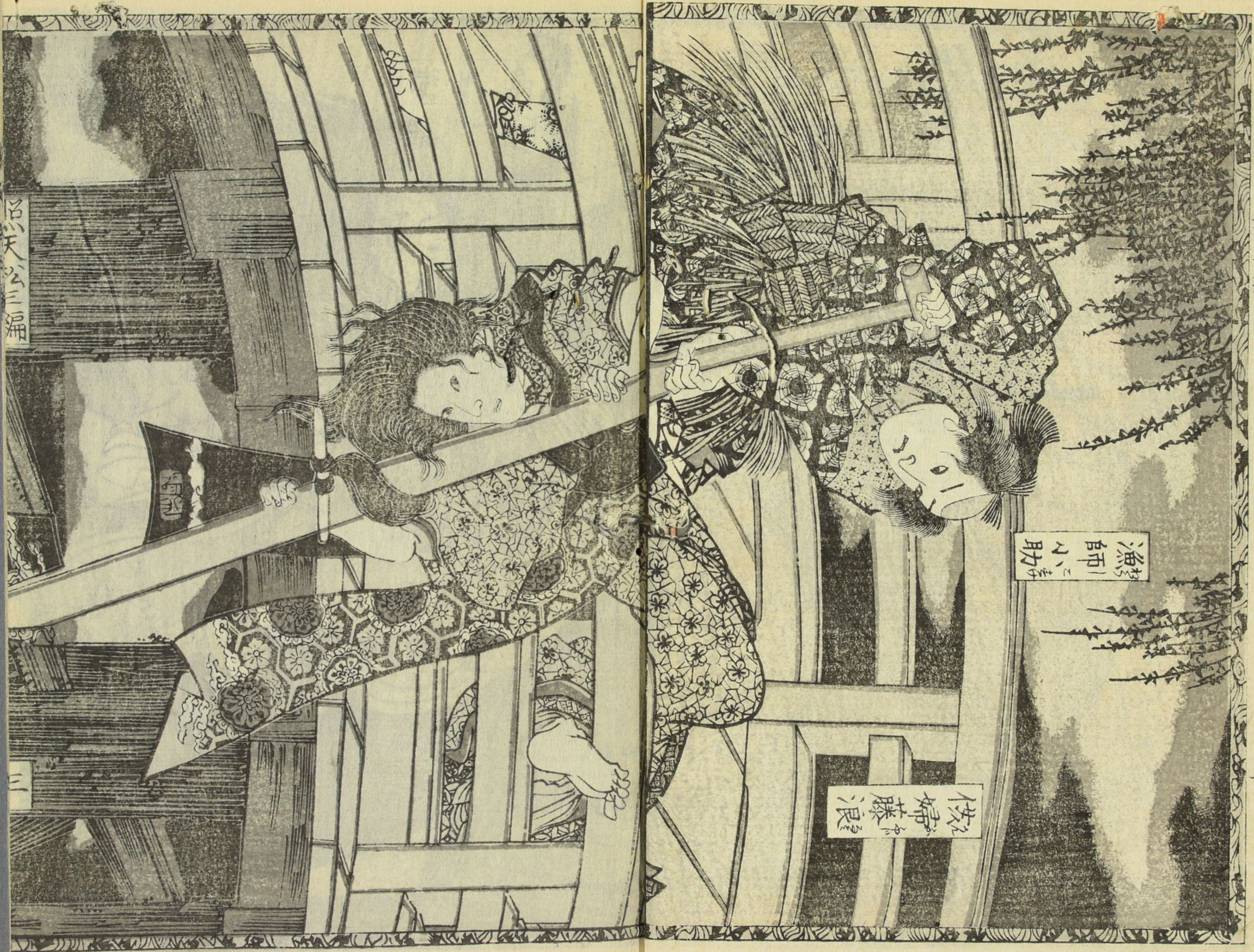


照天姫

小栗判官代
助重



横山
安三郎



漁師小助

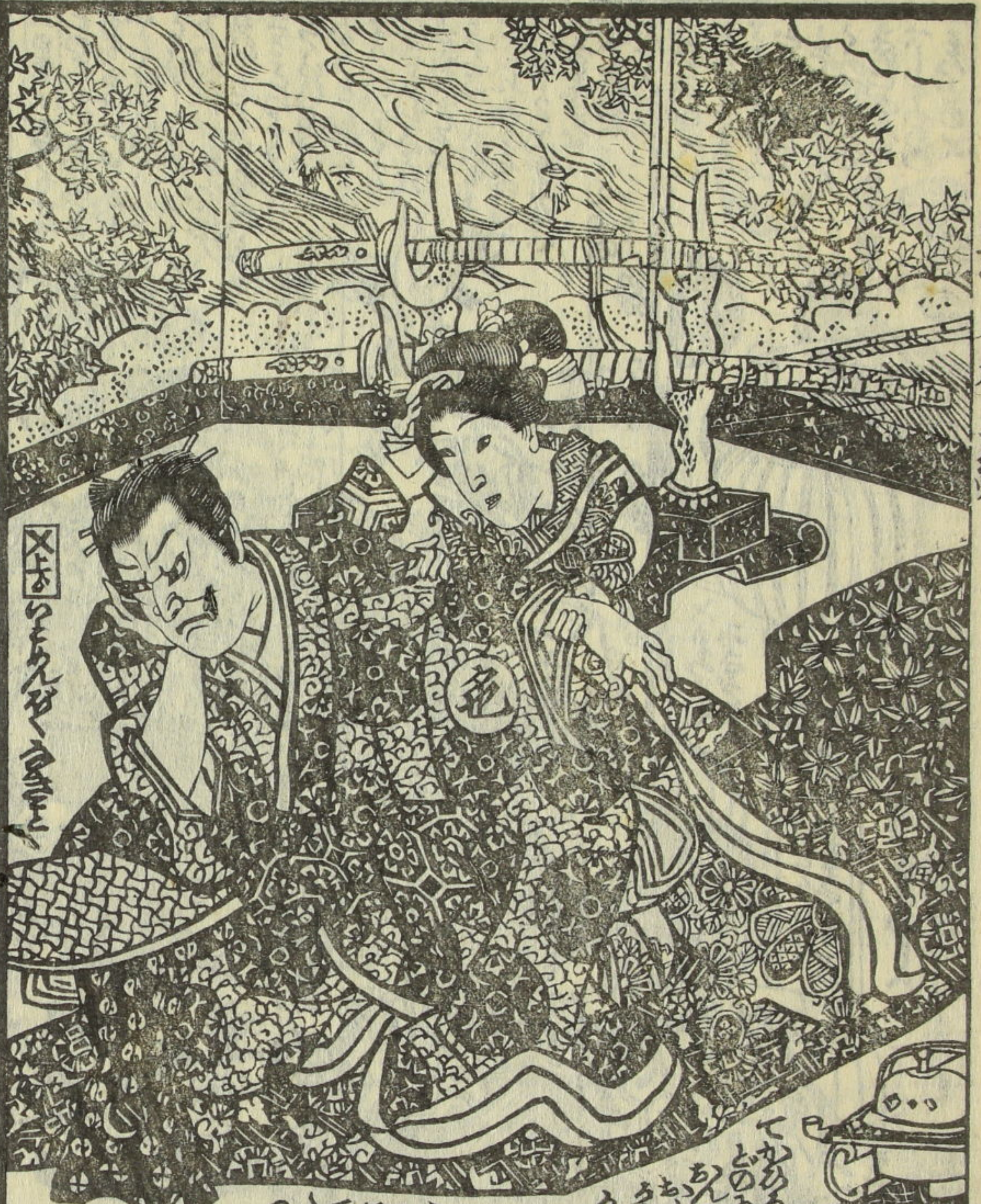
俊藤浪



照天姫



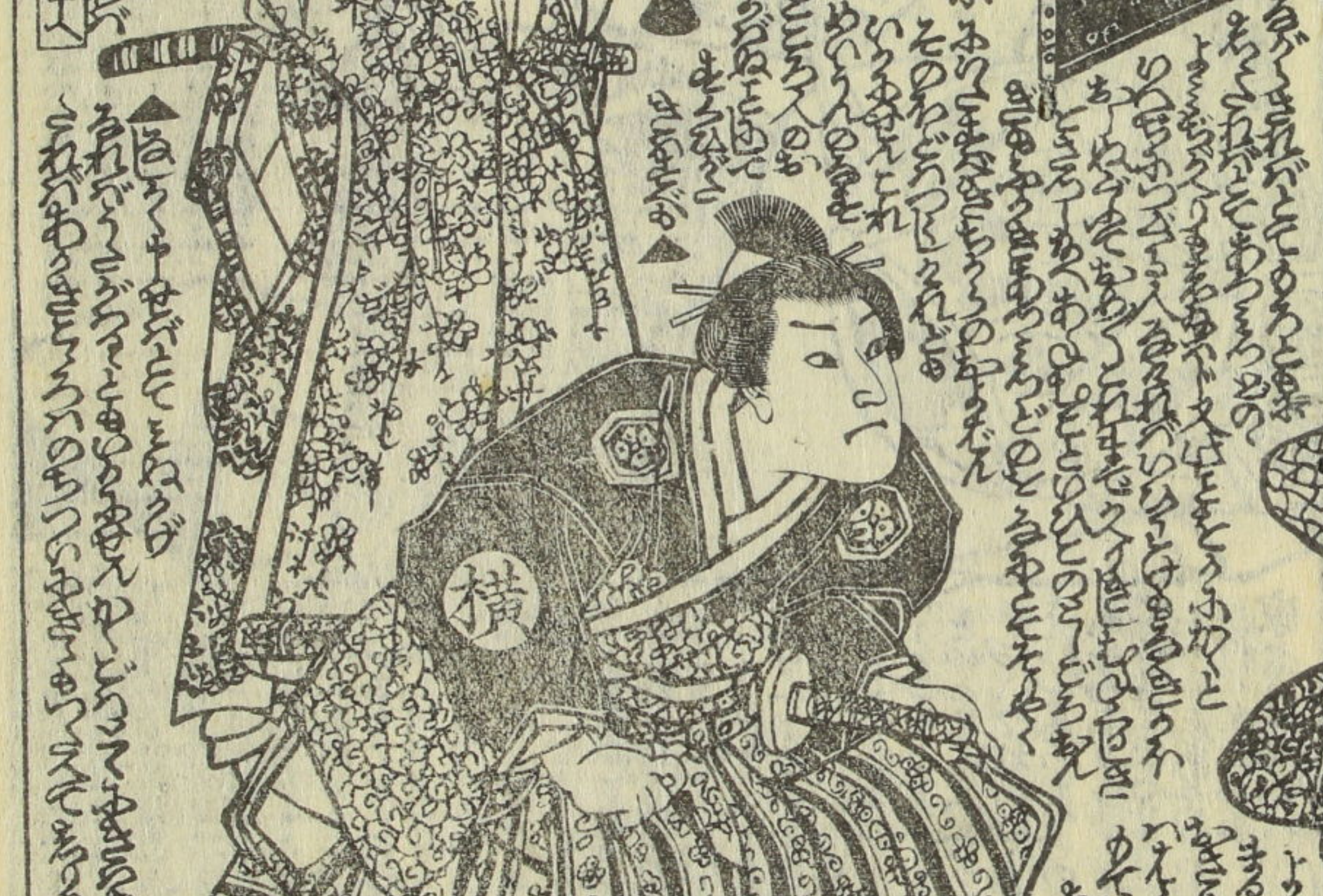
国常陸



Xto Suetan Atany

Handwritten text in a cursive script, likely a commentary or a scene description, located below the illustration.

Handwritten text in a cursive script, located at the top of the page, above the illustration.



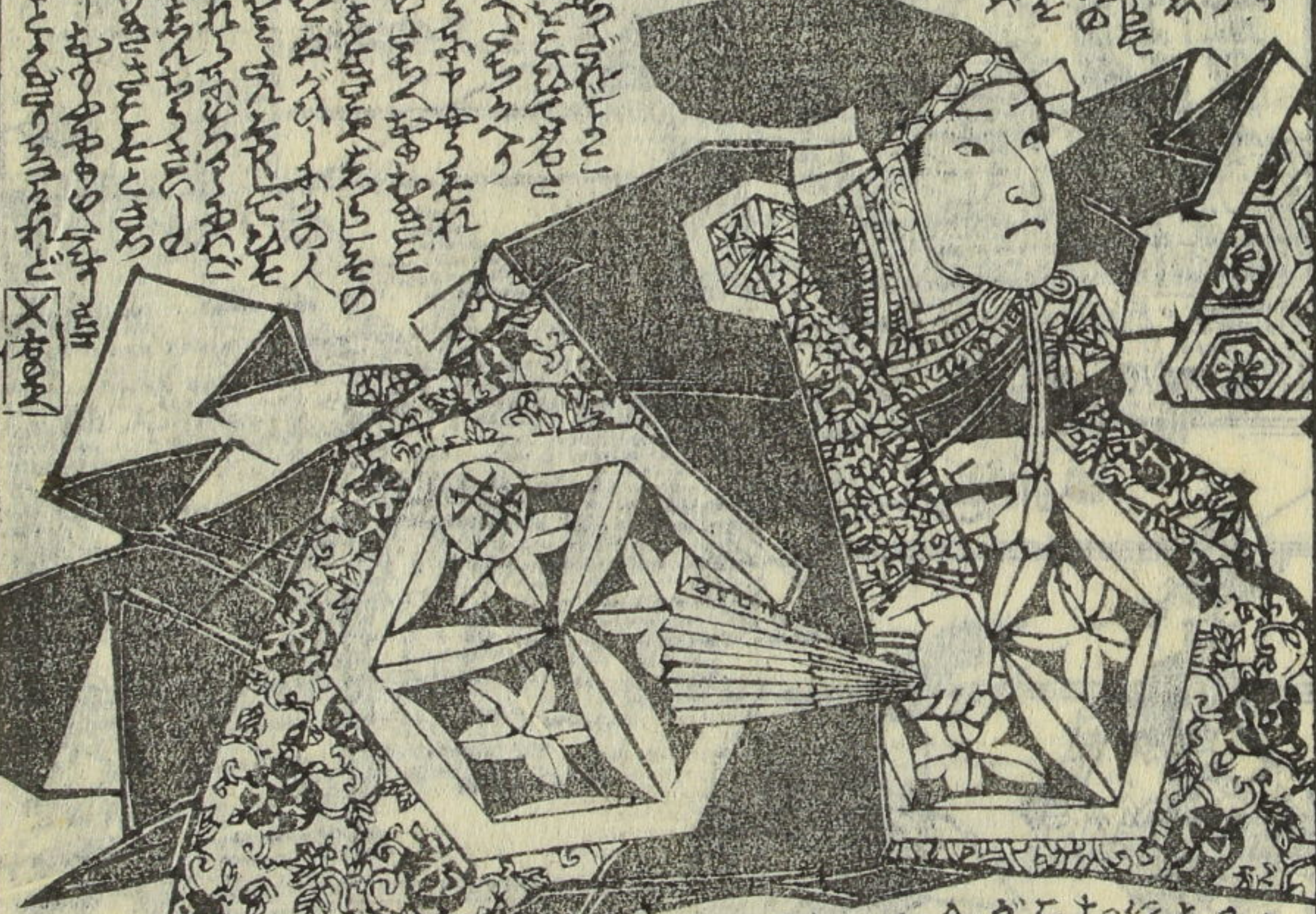
Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the page, below the illustration.

Handwritten text in a Gothic script, likely a list or index, located at the top of the right page.



Handwritten text in a Gothic script, likely a list or index, located at the bottom of the right page.

Handwritten text in a Gothic script, likely a list or index, located at the top of the left page.



Handwritten text in a Gothic script, likely a list or index, located at the bottom of the left page.

柳下馬種員作
 一雄齋國輝画
 九編編
 出板

同作
 女郎花五色石臺
 九編編
 同画

柳枝譯國光画



此は柳下馬種員作の「柳枝譯國光画」の挿絵である。中央に立っているのは、柳下馬種員（りゅうげまねい）とされる人物で、馬種（うまね）の種員（しゅいん）である。彼は柳（りゅう）の枝（えだ）を手にし、國光（くにみつ）の畫（え）を譯（やく）している。彼の周囲には、花（はな）や石（いし）の臺（たい）があり、また、女郎（じやうらう）や五色（ごしき）の石（いし）臺（たい）も描かれている。右側には、一雄（いちゆう）齋（さい）國（くに）輝（か）の畫（え）があり、九編（くへん）編（へん）の書（しよ）が示されている。

嘉永八乙卯新板目錄

地本草紙問屋 芝神明前 和泉屋市兵衛版

踊形容花競
 編者 柳水亭種清
 画工 一陽齋豐國
 初編より十編まで當年出板

此は柳水亭種清の「踊形容花競」の挿絵である。踊（おど）の形容（けいじやう）として、花（はな）の競（けい）が描かれている。編者（へんしや）は柳水亭種清（りゅうみづていしゆせい）であり、画工（えうこう）は一陽齋豐國（いちやうさいへいこく）である。この挿絵は、初編（しよへん）から十編（じゆへん）まで、當年（たうねん）に出板（しゅばん）された。

及假名
 古名
 一休草紙
 柳下馬種員作
 一雄齋國輝画
 九編編
 出板

同作
 女郎花五色石臺
 九編編
 同画

